

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372301046		
法人名	社会福祉法人 伸生紀		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	熊本県下益城郡美里町佐俣388		
自己評価作成日	平成28年1月22日	評価結果市町村受理日	平成28年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成28年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれのご利用者に向けた食事提供が年々できるようになってきた。管理栄養士との連携でソフトジェル剤を使用し、主食のソフト食も職員で作ることができるようになり、おやつも職員が工夫しながらソフト食で提供できるようになっている。新人職員も日々努力をしており、先輩職員の教を貰いながら対応ができるようになっている。  
あるご利用者の退院時にグループホームではゼリー食の提供は困難であろうとのことから療養型への転居を進言されたが、ご家族はグループホームへ戻りたいとの希望もあり、併設の栄養課で対応が可能なおことから受け入れができ、再びグループホームで生活を送られることができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

\* 「今、この人にとって一番は何か」を大切に、本人が納得して生活ができるような介護計画の作成を基本としている。利用者が安心して穏やかに暮らせるように本人本位の支援に努めている。  
\* 法人が実施するスキルアップ研修では、「認知症と認知症を取り巻く環境」等、年間のテーマを決めて全職員を対象とした研修が実施され、職員全体の資質向上が行われている。  
\* 運営推進会議では、緊急車両のための道路整備など具体的な課題について検討が行われたり、「そうめん流し」や「メルカドこもれび」等の行事に委員の参加を得て、より具体的な意見が出されるなど、有意義な運営推進会議となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員は、入社直後のグループ全体での新人研修にて理念はしっかりと教育されている。既存の職員も毎日の申し送り時に唱和することで念頭において業務にあたる事が出来るようにしている。	母体法人設立時の基本理念をホームの理念とし、利用者が安心して穏やかに暮らせるようなケアの提供を大切にしている。法人全体の研修に加え、申し送り時に理念を唱和することで、職員間で共有し、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年11月に、こもれび全体で「メルカドこもれび」と題し、ご家族、佐保地区住民や行政、各事業所へ案内を出し、200名ほどの参加があった。今後これをきっかけとして、より地域の一員としての活動に繋げていく。	老人会総会に出席したり、地区の清掃活動に職員が参加して住民としての役目を果たしている。母体法人が中心となり開催された秋祭り「メルカドこもれび」では、地元産野菜・お茶・パンやクッキー等を販売したり、音大生によるコンサートや、大道芸等も披露され、利用者・家族・地域の人々・職員が一緒に楽しみ、交流できる機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時間を使って認知症を議題として行っており、その他キャラバンメイトとして小学校や職員の地元の婦人会において活動も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事へ参加いただき、実際にご利用の様子を見ていただく機会を設けている。様々な意見をいただき、反映できるようにしている。	運営推進会議は、役場・社協・区長・民生委員・利用者家族等が参加して開催されている。「そうめん流し」や「メルカド」等、行事に委員の参加を得ることで、より具体的な意見が出されている。消防訓練に地元消防団が参加しやすい日程の設定や、緊急車両のための道路整備等、具体的な課題の検討が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問、質問があれば電話や訪問し、お尋ねすることで問題解決に繋がったり、運営推進会議にも参加いただくことで協力関係の構築に取り組んでいる。	法令等に関する確認等、必要な際は、役場に相談している。また、行政や社協が開催する勉強会等では、利用者家族にも案内を出して参加を呼びかけるなど、協力・連携できる関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内職員全体研修で学ぶ場を設け、普段のケアの場面で職員へは何がいけないかを伝えるようにしている。身体拘束は一切行っていないが、ブロック会時に他施設の事例を聞き、判断の難しさを感じるがあった。	法人が実施するスキルアップ研修では、毎年テーマを定めて全職員が参加し、ケアの質の向上を図っている。職員が無意識で発する言葉遣いの中に拘束に繋がる可能性があることなど、ケアの現場で注意・指導しながら拘束の無いケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内職員全体研修で学ぶ場を設けている。 職員の表情や行動を観察しながら面談を行ったり、心のケアも時間を置かずに対応できる環境は整っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する案件は社協への相談を行ったり、また施設外研修も成年後見制度等も含め積極的に参加している。実際に後見制度は活用中で司法書士との連携もできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みの際にも施設の内容をご説明させていただいている。契約締結や解除時には、しっかりと説明し、同意及び納得に繋げている。ご本人、ご家族が遠慮せずお尋ねいただけるような対応も心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護保険更新時の担当者会の場であったり、多くは面会時等において意見収集に行い、直ちに問題解決ができるよう、施設内にてカンファレンス等を通じ、ご利用者の生活の質向上に繋げている。	入浴介助をしている利用者の家族から、「脱衣所が寒いのでは」という意見が出され、エアコンと電気ストーブを設置して要望に応えている。家族会のメンバーは、自主的に年末の大掃除を提案し実施したり、家族同士の茶話会も行っている。職員と一緒に利用者を支える関係が出来ていると思われた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等だけではなく、日頃のケアの場面後に意見交換の機会も多い。職員の意見は尊重し、モニタリングを行ない意見を全員で出し合い運営に反映させている。	管理者は、利用者への対応の仕方や、より適切な排泄援助等、ケアに関する職員の気付きや提案が言いやすい雰囲気作りに努めている。施設設備等に関する意見や要望は、法人の総務課に伝え、改善等を依頼することとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の思いや状態を把握するよう努め、資質向上のための人事考課を行いながら、きちんとした評価を行っている。また、リフレッシュ休暇の制度も設け、職場環境整備も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じた役割を分担することで責任感とやりがいに繋げている。スキルアップ研修を毎月実施し、現場での経験とリンクさせながら学びを提供できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城ブロック会の勉強会が年に3回実施されており、同じグループホームの職員が集うため積極的な参加を促している。学習の場でもあるためグループワークを通し、新たな「気づき」場所として捉え、サービスの向上に繋げている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入としては入居前の事前訪問を行っている。1回会ったことのある人という安心感を提供しサービス導入へと繋げている。困りごとや不安、要望が言い易いような声かけの仕方に配慮し、安心、安全を目指して関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と事前に面談できない場合は電話で連絡を取り合い、情報を共有できる環境を整えている。いつでも疑問や要望、質問があれば承ることをお伝えし、遠慮のない関係作りができるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の担当ケアマネや相談員、看護師長等やご家族から情報を得て、入居初期のサービスに不足がないようにし、受け入れ側の多職種とも連携を行い対応可能な部分は最大限に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や軽作業を提供し、誰かの役に立っていることを自覚していただいている。昔の事等を教えていただき、人生の先輩として尊敬していることを伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	報告、連絡を細目に行い、常に近況を知っていただいている。ご利用者の生活歴を教えていただき、その方に合ったケアをご家族と共に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所への外出や傾聴ボランティアの方の来所等、近所の方が突然に手作りの寒天を持参し来所され、ご利用者とカラオケを楽しまれることもあり、地域との関わりを継続できるように支援している。	昔馴染みのスーパーに職員と一緒に食材購入に出かけたり、希望にそって墓参りに行ったり、思い出を大切にされた支援に努めている。地域の公民館で行われるサロンの参加者が手作りの寒天持参で来所し、利用者で交流する機会もあるなど、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の方であっても、ご利用者同士の会話が成立するようにスタッフが間に入り取り持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は契約が終了されても、ご家族とのお付き合いがあったこともあるが、このところは退居後間もなく亡くなられることが多く継続的な関係は保たれていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示される方は可能であれば最大限対応するようにしている。意思表示が困難な方に対しては、生活の中での発言やご家族に確認しながら対応を検討している。	各利用者に担当する職員を定め、利用者それぞれについてプロフェッショナルになるように意識づけを行っている。言葉で表現が難しい人は、生活歴や、家族からの話を参考にし、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話可能な方においては、ご本人が聞かれない気持ちには配慮しながら、これまで送られてきた生活を会話の中から知るように努めている。ご本人からの情報を面会時のご家族へ返し、ご家族からも、より本人像を知る情報が頂けるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が一人ひとりの状態を把握できるようにタイムリーに情報交換を行い共有できるようにし、個人個人の有する力を発揮できるように支援を行っている。しかし、職員の経験年数でも支援力に差があり十分とは言えない面も含まれ、職員のスキルアップも重要課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は現場に近いところにいるが、細部に渡ると不明な点もあるため、課題が現場から上がってくれば情報収集を行い、日常やミーティングの場で検討を行い、担当制にしているので担当者がアセスメントを取りケアプランへと繋げている。	「今、利用者にとって一番大切なことは何か」について検討し、利用者本人にとって納得の行く生活が出来るように計画を立てることとしている。本人の望みを実現することで気持ちの安定を図り、安心して過ごせるような介護計画を作成し実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の言葉ではしっかりとした情報の共有や申し送り、支援の検討には繋げているが、それが記録に反映されているかという点不足部分もあるため、記録の強化を図る必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出の希望があれば出来る時に対応している。併設であるため管理栄養士もおり、ソフト食の提供も可能であり、個人の状況に合わせて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでの主治医との関係の継続や受診に出掛けたり地元の施設へおやつを食べに行ったり、ドライブをすることで見慣れた景色を眺め会話の発端を作るなど、ご利用者の生活が少しでも豊かになるよう行事等も計画・実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居前の状況を継続できるようにしている。定期受診や定期往診を行っており主治医や看護とも報告や連絡を密に行い、ご家族へも連絡をしながら突発的な受診にも対応している。	希望に沿ってかかりつけ医の継続受診を支援し、職員が同行し、結果は家族に報告している。また、訪問看護ステーションと契約し、毎週金曜日に健康チェックを実施して健康管理に努めるなど、適切な医療受診の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約を昨年12月に行い、看護の支援がより強固になるようにしている。毎週金曜日に定期訪問あり、状態把握の他に職員の疑問や特変時の対応もしていただいている。各かかりつけ医療機関の看護とも連携は深まっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があれば入院先に足を運び担当者へ情報をもらうなどして状態把握を行い、面会に行けない時は電話での把握をし退院の目的を確認している。主治医の病院に入院される事が多く、普段から関係作りはされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年度、看取りを経験し運営推進会議で報告の機会があり、重度化や終末期に向けての説明書を作成し話す場を設けている。地域の在宅医療連絡会に医師や薬剤師、相談員など多岐に渡るメンバーで終末期についても検討しており、今後もっと密な連携が図れるようになるのではないかと考えている。	昨年、かかりつけ医の指導のもと、家族の希望に沿って訪問看護を利用しながら利用者の看取りを経験している。事前に、職員は勉強会を実施し、不安を軽減して、納得して看取り対応を行っている。看取り後の話し合いでは、「お世話できて良かった」との感想が多く聞かれている。管理者は、職員の変化と成長を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全体研修で知識や対応法は周知や体験を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年は久しぶりに台風来襲があり、玄関前の倒木や停電、ガラスが割れたりとした。夜勤者との連絡を随時行いながら対応した。火災時の避難訓練も年に2回行っており、消防職員の指導も受けている。	年に2回、利用者・近隣住民の参加を得て火災避難訓練を実施している。訓練後は、消防署職員による指導も行われている。風水害時は、地域の避難場所となっており、3日分の食糧を備蓄している。	地域消防団員との合同避難訓練実施と、緊急車両のための道路整備の早期実現を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を基本に声かけを行っている。しかし、ご利用者によっては通じていけないこともあるため、尊厳と心地よさに留意しながら敬う気持ちを持って対応している。	丁寧語・敬語を言葉遣いの基本としている。また、本人にとって一番心地よい呼称を家族に聞き、了解を得て使用している。法人の全体研修で「尊重とプライバシー」について学ぶ機会を設け、職員の意識向上を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来る方においても遠慮せず気持ちの表出が出来るような環境を作っている。表出が困難であってもご家族に意向を聞きながら自己決定に近い環境が作れるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れに固執されることなく、ご本人の状態や気持ちに添って、全てが強制にならないような支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを気にされる方が少なくなっているのも現状であるが、職員が衣類の配色を考えたり髪型に少し変化を持たせるなどの工夫を行っている。出来る方においては洗面所に化粧水やブラシを配置し、ご自分のリズムで身だしなみを楽しんでいただくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは基本、管理栄養士作成のものに合わせているが、ご利用者の会話や職員から投げかけて遠慮せずに好みのものを提供できる機会を作っている。特にさつま芋を使った物を間食で提供すると昔を思い出され会話が弾むこともある。	朝・夕食は、ホームの職員が調理し、昼食は、併設の特養で調理された料理が提供されている。利用者の嚥下状態にそって、きざみ食・ソフト食も提供されている。天気の良い日は、テラスで昼食をとったり、近隣のカフェでお茶とお菓子を楽しむ支援もある。	現在、ホーム職員による昼食の検食は行われていない。美味しさ・食べやすさ等の確認のためにも、同じ食事を食することは大切かと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本管理栄養士作成のメニューに添って提供している。ソフト食の提供も可能であり、個人に合った食事形態を提供出来ている。水分量も計量カップで計り提供し、残量も計測している。個人の状態や好みに合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。専門の口腔ケアを利用されている方もおられるが、来所される歯科衛生士へ職員の疑問や歯ブラシの選定など相談する場面もあり、更なる口腔ケアの充実をつなげている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、時間、量を記入することで客観的に確認することで、その方の排泄リズムを把握しトイレ誘導やパット交換を行っている。ご利用者の経済的負担の軽減にも繋がればと考えている。	排泄チェック表を参考に、よりタイムリーな誘導と、適切な排泄用品の使用で、排泄の自立と、快適な排泄の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スキルアップ研修で詳細に排便についての学びを受けると共に水分摂取量の把握、食物繊維やプルーンなどを活用し、なるべく薬に頼らない方向で取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自発的な入浴希望をされる方はおられないが、午前中の中の入浴を好まれる方がおられないため午後からの入浴を行っている。	2日～3日に1度の入浴が基本となっている。湯は、鉱泉が使用されているが、浴室の作りから車いす利用者が湯船に浸かることが難しく、多くがシャワー浴となっている。	鉱泉が湧き出る地域に位置しており、近隣には「佐俣の湯」など、温泉施設もあることから、車いす利用者も入浴を楽しめる支援の工夫を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の入眠を考えながら、日中の臥床希望には極力対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を看護に作ってもらい、その後の確認をすることで処方箋にも目を通し内容の把握に努めている。薬が変更になった時は申し送りや申し送りノートにて情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を会話の中やご家族より把握するようにしている。それに沿って書道の提供や干し柿作りを提供するなどしている。嗜好品も情報収集を行い、提供の機会につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	対応できる時できない時の場面はみられるものの「家を見たい」「買い物に行きたい」などのご希望ある時は対応している。食材買い物に一日おきに行くので、その機会に出掛けていただく事もある。	受診の帰り道に自宅付近を回ったり、日用品購入に馴染みのスーパーへ出かけることはあるが、立地条件上、散歩等、気軽に行う外出の機会は限られている。近隣の神社へ初詣、ドライブでお花見等、季節を味わう外出支援に努力している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	あるご利用者は金銭の自己管理をされており、買い物時は自由に遣っておられる。しかしお金を盗られたとの思いが常にあるものの他者に預けるのは不安でたまらないとの気持ちから施設へ預けることは拒否されている状況。金銭管理の検討が必要である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、ご本人のお気持ちに添い、速やかに対応している。現在は手紙の支援の機会はない状態である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が自由に過ごしやすい空間になっており、ご利用者同士でもトラブル回避にも考慮し、職員が個別に対応の場所の確保や、ご利用者の気持ちに添えるよう取り組んでいる。	太い梁が露出し、穏やかな灯りの照明器具と木材が多く使用されている広いリビングは、暖かみのあるゆっくりとした空間になっている。オープンキッチンと事務を執るコーナーがリビングの一画にあり、利用者の様子を見守りやすい設計となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者同士でテーブルで洗濯物をたたんだり談笑されたりと過ごされている。一人になると不安と寂しさを感じられる方には一人の空間ができないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者によっては居室内が殺風景になっているところもある。ご家族に馴染の物を持って来ていただくように声掛けしたり、動物のカレンダーや制作物などを貼り、ほっとできるような工夫は行っている。	居室は、其々の利用者が持ち込んだ仏壇や家具、職員手作りのカード・家族やペットの写真・お花やぬいぐるみ等が置かれ、其々に心地よい設えとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限りの残存機能を活かしたケアを行っている。意思疎通が困難でも音楽を好まれ笑顔が見られれば、そのような環境を提供している。安全面においては足元に滑り止めマットを敷くことで自力での立位が可能になるような支援を行っている。		